

1 基本理念（P.6～7）

「笑顔にあふれ、
誰もが“幸せ”を感じる
都市」の実現

～安心していつまでも住み続ける
ことができる、個性豊かで
魅力的なまち～

2 総合計画の概要（P.10～17）

総合計画の役割

- 市民・事業者・行政など様々な主体が行うまちづくりの指針となるもの

策定にあたっての考え方

- ① 市民みんなの総合計画
公共を支える者すべてにとっての重要な指針となる計画
- ② 行政経営の強化
戦略的な行政経営が可能となる実効性の高い計画
- ③ 岸和田市総合戦略との一体化とSDGsとの連動
総合計画と総合戦略を一体的に推進／SDGsの達成を意識した計画
- ④ 技術革新がもたらす社会と技術の活用
新たな技術を行政だけでなく、都市全体で活用し推進する計画

計画の構成

- 基本構想（12年間）
まちづくりの指針（大きな方向性）を明示
- 基本計画（4年間）
将来像を実現するための中期的シナリオ
重点目標や総合戦略部分についても明示

計画の進行管理

- PDCAサイクルによる進行管理
- 市全体と行政それぞれに対して振り返る仕組みを導入

3 基本構想（P.20～51）

岸和田市の現状

- 位置
- 岸和田市の成り立ちと変遷
- 地形の構造
 - <地形の特徴>
 - ・臨海部、平地部、丘陵部、山地部の4つの地形で構成
 - ・牛滝川、春木川、津田川が流れる谷筋により3つの谷が形成
 - <コミュニティの単位>
 - ・これまでの過程や風土・環境から分けられる6つの地域（都市中核、岸和田北部、葛城の谷、岸和田中部、久米田、牛滝の谷）
- 人口の動向
30歳前後の子育て世代の転出傾向が顕著であり、これらを中心とした人々に対する働きかけや対策が重要

社会状況の変化

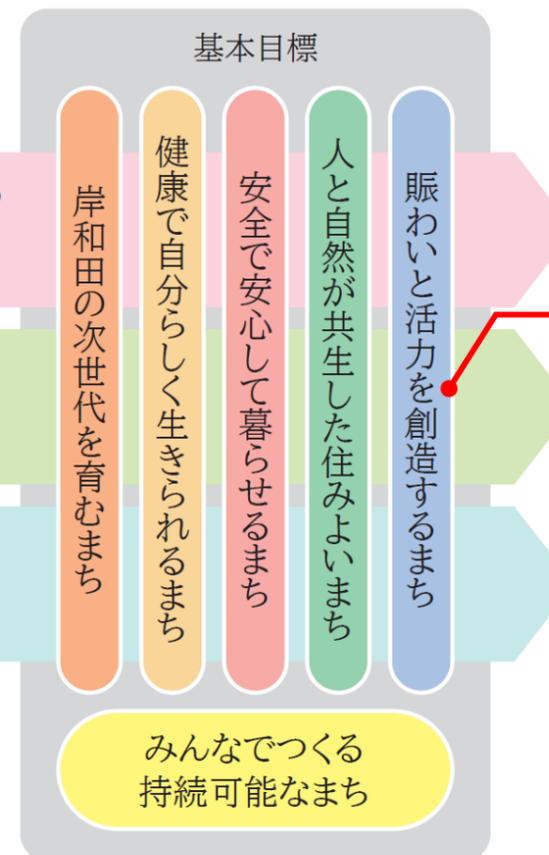
- ① 人口減少・超高齢社会
「選択と集中」やダウンサイジングなど、質の向上を重視したまちづくりが必要
- ② SDGs（持続可能性・多様性）
人々の多様性の尊重、地域全体の持続可能性を意識したまちづくりが必要
- ③ 地球環境問題
脱炭素社会や循環型社会への移行など地球環境に配慮した地域経済社会の構築が必要
- ④ 危機管理
自然災害だけでなく、新たな危機への対応能力を高めていくことが必要
- ⑤ 革新的技術
利便性向上や人口減少への対応のため、革新的技術を活用することが必要
- ⑥ 財政状況
行政の効率化など、引き続き行財政の構造改革に取り組むことが必要

将来像

個性きらめき 魅力あふれる ホットなまち 岸和田

岸和田を強くする”3つの視点“

各視点の
展開イメージを記載
(P.41参照)



将来像に込めた思い

- ◇ 個性きらめき
人情味ある市民が多く、岸和田への愛着心やプライドが活かされている
- ◇ 魅力あふれる
海から山までの豊かな自然と古くからの歴史・文化、農業・漁業など、魅力ある資源が活かされている
- ◇ ホットなまち
人にやさしく、いざというときにつながれる熱い心や、注目される熱い取組や場所があり（ホット）、住んでいても訪れても安心（ほっと）できる場所となっている

基本目標を細分化した個別目標の設定（P.50～51参照）

<設定例>

基本目標 賑わいと活力を創造するまち

- ・ 活発な経済活動が行われている
- ・ 観光資源が活かされている
- ・ 岸和田の魅力が伝わっている
- ・ 賑わいや活力を支える基盤が整っている

将来人口の方向性（P.42参照）

子育て環境や住環境の充実など、総合計画に定める施策の実施により、子育て世代の転出を抑制し、転入の増加につなげ、その結果、人口減少のスピードが緩やかになり、推計値よりも人口が増加していくことをめざす

都市構造 … 裏面参照

将来のまちの活力や、市民の生活利便性を維持していくために、市内の各地域間はもちろんのこと、周辺都市、関西圏を含めた広域的な都市間連携を強化し、様々な交流と活動の活性化を支える「広域連携型都市構造」の実現



地域連携

泉州地域
広域連携

大阪・関西圏
広域連携

① 土地利用の基本方針

方針1
山地・農地・市街地のバランスを保つ

方針2
地域資源・コミュニティのまともに配慮

方針3
自然的条件に留意し災害に対応

方針4
市街地の再編・整備による産業振興と居住環境の調和

方針5
持続可能な交通ネットワークと都市的機能を備えた拠点形成

② 区域別の土地利用方針

臨海区域（おおむね海岸線～大阪臨海線）

・工業・流通・港湾業務及び供給処理業務機能を担う地域

都市区域（おおむね大阪臨海線～泉州山手線）

・住宅・商業・工業などの用途を計画的に配置
・各鉄道駅周辺及び幹線道路沿道は、商業・流通・業務機能を担う地域
・住宅地域の良好な住環境の保全・形成
・市街化調整区域内の農地や都市農地の保全・活用
・泉州山手線の延伸に応じて、交通結節点を中心に地域特性を活かした広域交流拠点の形成と産業創出を推進

田園区域（おおむね泉州山手線～阪和自動車道）

・農業振興機能を担う地域
・丘陵地区に地域資源を活かした地域拠点の形成と産業創出を推進
・幹線道路沿道は、地域経済の活性化を目的とした産業の立地については周辺土地利用との調和と環境保全を図りつつ、適切に誘導

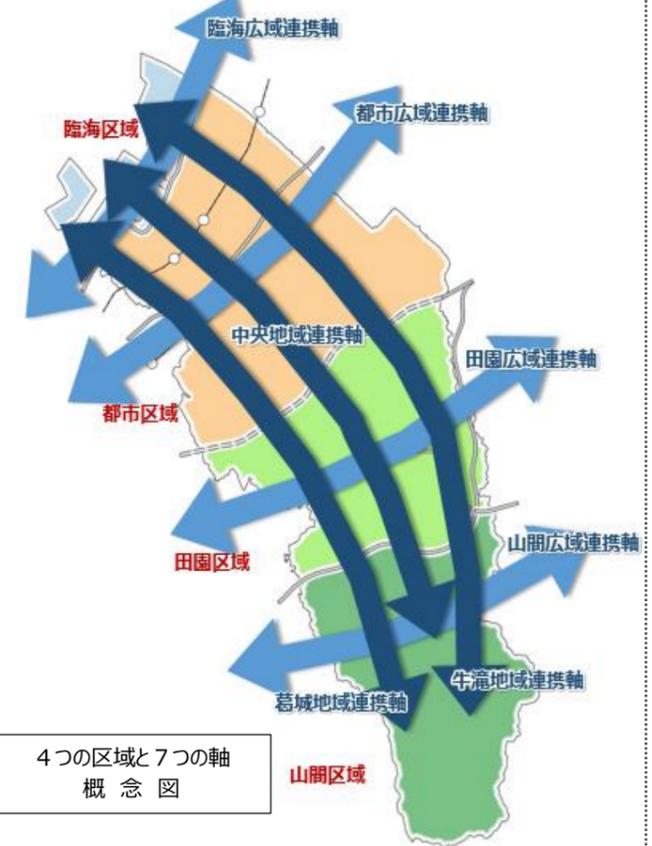
山間区域（おおむね阪和自動車道～府県境）

・森林が備えもつ機能を積極的に評価し、自然環境・景観の保全

③ 軸の設定

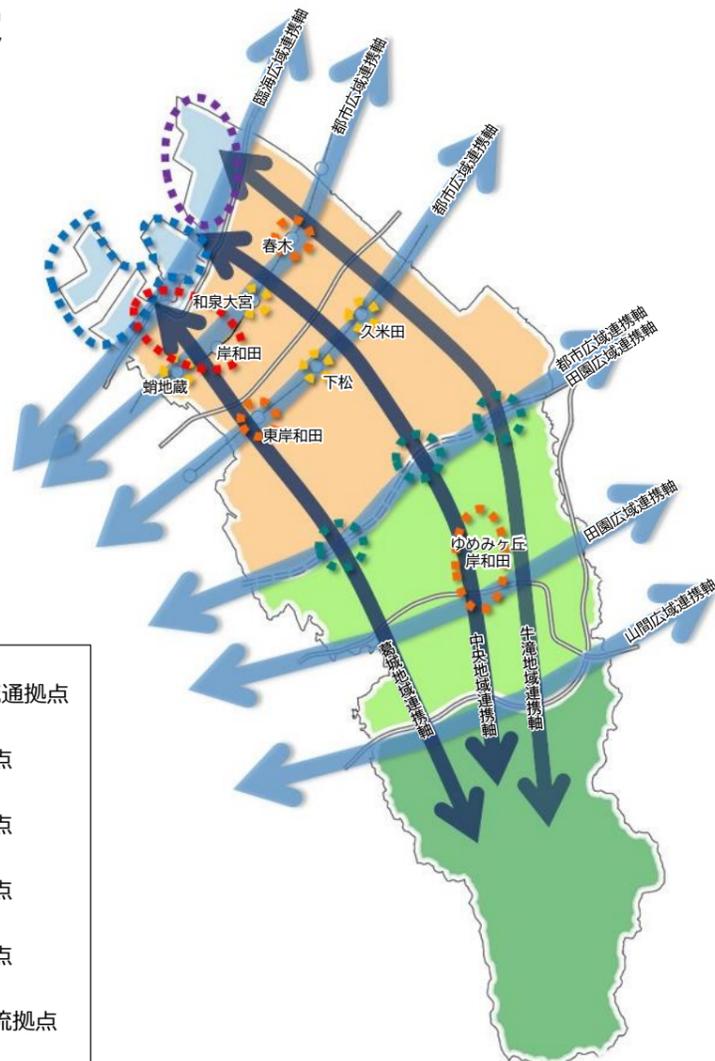
泉州地域や大阪・関西圏を結ぶ「広域連携軸」と帯状に形成された4つの区域を結び、人・物・情報が流れ、様々な交流と活動の活性化を図るために市域内を結ぶ「地域連携軸」を設定

地域連携軸により海と山をつなぎ、地形や水系に沿って形成された自然・文化を有機的につなぐとともに、地域連携軸と格子状をなす広域連携軸により、市域内及び市域を越えた交流・活動の発展を推進



4つの区域と7つの軸
概念図

④ 拠点の設定



- 工業・流通拠点
- 産業拠点
- 都市拠点
- 地域拠点
- 生活拠点
- 広域交流拠点

工業・流通拠点

鉄工団地、地蔵浜地区（阪南1区）、岸之浦地区（阪南2区）などの臨海部の埋立地は、工業・流通拠点として、広域連携軸近辺及び海辺の立地条件を活かし、工業・流通機能の集積を促進

産業拠点

木材港地区は、広域連携軸や市街地との近接性を活かし、工業・流通機能の集積に加えて、先端産業・新産業の創出をめざす

都市拠点

南海本線岸和田駅周辺の商店街、岸和田城周辺の観光資源、港緑地区の文化施設や商業施設、また地蔵浜町の漁業、市立公民館をはじめとするコミュニティ拠点など様々な資源や機能が相互に活性化しあい、市内外から人が集い、憩い、交流する都市拠点の形成を促進

地域拠点

南海本線春木駅周辺、JR阪和線東岸和田駅周辺は、商業・居住・公共サービス機能などの多様な機能が集積し、人が集い、交流する地域拠点の形成を促進
田園区域に位置するゆめみヶ丘岸和田は、眺望を活かした居住地の形成と地域資源の利活用や農業をはじめとする多様な産業の交流・連携により、地域活力の創出をめざす

生活拠点

南海本線泉大宮駅・蛸地蔵駅、JR阪和線久米田駅・下松駅の周辺は、居住や商業・医療などの日常生活を支える機能が集積し、安全で利便性の高い生活拠点の形成を促進

広域交流拠点

広域連携軸泉州山手線の延伸に応じて、交通結節点を中心に、地域特性を活かした人・物・情報が行き交う広域交流拠点の形成を促進
地域コミュニティの拠点である市民センターや地区公民館とも連携して交流の活性化を図るとともに、周辺土地利用との調和と環境保全に配慮しつつ、産業の創出や地域の活性化をめざす